

## 公表 事業所における自己評価結果

事業所名		キッズサポートクラブあしたばプラス				公表日	2026年 3月 13日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5	0			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5	0			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	3	2	プレールーム内は定期的に備品配置を見直し、子どもたちが使いやすく安全に配慮した環境を整えている。	居室の構造上、トイレ入口に段差があるが、運動機能に配慮が必要な利用者はいないため、怪我防止の点検のみ行っている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5	0	職員が毎朝清掃を行い、食事やおやつ前後の消毒も欠かさず実施している。	(夏休みなどは)子どもたちも分担して毎日清掃を行っているが、次年度は施設周辺のクリーン活動なども行っていく。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5	0	着替えを行うときは別室に入り、その他の状況では必要に応じてパテーションを使用するなど、プライバシーに配慮している。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	4	1	半期ごとに自己目標を設定し、自己評価と他者評価をもとに振り返りを行っている。	正社員は必須だが、パートタイムの職員にも自己のスキルアップのために取り組みを進めていきたい。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	0	保護者アンケートの結果を職員全員で共有し、振り返りと改善に向けた話し合いを実施している。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	0	毎日の昼礼や毎月の定例会のほか、個別支援ミーティングや事業所内研修の場でも意見を言いやすい職場環境作りを心掛けている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	5	0	虐待防止チェックシートの結果や研修の内容などについて、第三者が不定期に監査出来る体制を整えている。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5	0	法人内では各委員会の年間計画に従い毎月研修を実施している。また、事業所内でも毎週木曜日に研修を行い、障害福祉についての基礎から学んでいる。		
適切な	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5	0	今年度「支援プログラム」を作成、HPIにて公表している。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	5	0	個別支援ミーティングの記録シートを日頃から活用し、こども一人ひとりの細かな変化や気になる点など記録している。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	4	1	月に2回個別支援ミーティングを実施することで、職員全員の意見を反映して共通理解出来るようにしている。	シフトの関係上、個別支援ミーティングに参加できない職員にも聞き取りを徹底していく。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	3	2		児童発達支援管理責任者以外の直接支援を行う職員全員に、支援計画の読み込みと共通理解を促す場を計画的に設けることが課題である。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	1	4		事業所独自の視点として行動観察の知見を職員間で共有しているが、一定のツールなどは使用していないので、今後検討	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	3	2		「地域支援・地域連携」についてはこれまで積極的に取り組めていなかった反省から、次年度は地域のイベントにボランティア活動で参加することや、他事業所との合同活動などを計画・実行していく	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5	0	担当職員（2名）を中心に立案し、さらに活動内容によってその他の職員が主で実践するなど、職員全員で取り組んでい		

支 援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5	0	SNSで見つけた遊びや製作活動など、新しい活動内容を常に模索している。	子ども一人ひとりの特性理解をさらに深め、療育に繋がる新しい活動内容を取り入れていきたい。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5	0		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	3	2	職員の出勤時間は日によって変動があるが、昼礼での打ち合わせに加えてアプリで情報共有を行い、役割分担も明確にしている。	出勤時間や業務都合で昼礼を行えない日があったが、2名以上の職員が待機している時間で必ず昼礼を行い、前日の振り返りなど顔を合わせて情報共有を実施し
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	3	2	帰り返迎などで直接保護者様から得た情報については引継ぎノートやアプリに書き込むことで共有している。	職員の退勤時間が同じではないので全員での終礼は難しいが、ノートやアプリを活用するほかのより良い方法について検討していく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5	0		
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5	0	定期的なモニタリング以外にも、ちょっとした気になることがあればその都度対面で話す機会を設け、支援の見直しを	お仕事の事情などで直接顔を合わせる機会が少ない保護者様に対しても、気になることがあれば出来るだけ面談の機会を
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	5	0		今後さらに職員が意識を高め、組み合わせた活動のアイデアを出し合っていく。
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	5	0			
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5	0	子どもの状況に応じて、必要と判断すればこちらから相談支援員に相談し、積極的に担当者会議を設定している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	1	4		学校（担任）や主治医との情報共有は密に行っているが、その他の関係機関との関わりが少ないので、今後は増やしてい
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	5	0	LINEや連絡帳、電話や口頭などで聞いた内容はアプリと引継ぎノートに記入し、漏れが無いよう職員間で共有している。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5	0		
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	0	5		高校を卒業する利用者について、次の就労支援事業所などに情報共有が出来ていなかった。今後は保護者の意向を踏まえながら、情報共有を行っていく。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	1	4		児童発達支援センターと顔合わせは出来ているが、直接的な助言や研修参加などは出来ていないので、必要に応じて機会
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	0	5		「地域支援・地域連携」についてはこれまで積極的に取り組めていなかった反省から、次年度は地域のイベントにボランティア活動で参加することや、他事業所との合同活動などを計画・実行していき
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	0	5		事業所連絡会には参加出来ているが、協議会等への参加は出来ていないので、研修の機会があれば参加したい。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5	0	連絡帳への記入（利用時）に加えて、帰り送迎時などに口頭で状況を伝えている。直接会えない保護者様にはLINEで様子を伝えるなど、こまめな情報共有を心	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	0	5		保護者会・家族向け研修などは実施できていなかった。外部研修などがあれば案内するところから始めたい。
36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5	0		※支援プログラムについては今年度から公表しているので、保護者に周知徹底します。	
37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けている	4	1		保護者の意向だけでなく、本人の思いや家族の願いもしっかりと確認し、計画に反映していく。	

保護者への説明等	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	3	2		適切な時期に実施できていなかった。早めから日程調整の打診をして実施していく。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5	0	日頃から様々なツールで保護者様と情報を共有し、必要性があれば面談のお誘いをしている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	0	5		プライバシー保護を優先して保護者会（父母会）は実施してこなかった。次年度は保護者の要望を確認して、交流会などを計画していきたい。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	2	3		保護者様からの苦情を全員で共有せず、一部の職員で対応しようとしたことがあった。報告・連絡・相談の基本について改善策を講じ、今後は漏れなく情報共有することを職員全員に周知した。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5	0	SNSを活用して日頃の活動の様子ほか、毎月の活動内容を事前に配信し、見通しを持った利用に繋げている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5	0		
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5	0		
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	0	5		「地域支援・地域連携」についてはこれまで積極的に取り組めていなかった反省から、次年度は地域のイベントにボランティア活動で参加することや、他事業所との合同活動などを計画・実行していきたい。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	1	4		それぞれのマニュアルについて各家庭に周知徹底が出来ていなかった。訓練の実施についても次年度の計画に盛り込んで実施していく。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	3	2		策定したBCPについて一部の職員は把握出来ているが、パート職員を含む全職員に周知出来ていなかったため、読み合わせの時間を設けると共に訓練も実施して
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5	0	てんかんの持病がある児童については、その頻度や対応方法について保護者から入念に聞き取りを行い、与薬指示書の用意をお願いしている。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5	0		食物アレルギーの子どもは在籍していないが、今後の受け入れ準備として事業所内で研修を行っている。次年度も継続。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5	0		
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	3	2		事業所独自の安全計画は策定しているが、一部の保護者様に周知徹底が出来ていないので、周知方法を検討した上で再度ご説明する。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	3	2		昼礼ほか、職員同士で顔を合わせた際に共有は出来ていたが、再発防止に向けた方策の周知や記録が不十分だったと反省。早急に整備する。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5	0		保護者様から当事業所職員による「不適切な対応（言動）」があったと那覇市へ相談があり、性的虐待に該当するとの通達がありました。早急に改善策を講じ、報告連絡体制を強化すると共に事業所内研修を継続実施していくことで虐待防止意識向上に努めてまいります。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5	0	身体拘束についての同意書をもらうほか、職員研修の中でも基礎知識の学習や事例検討などを行い、虐待防止に努めて		